

2021年8月12日

2021年度第1四半期決算説明会 質疑応答

沖電気工業株式会社

Q：サプライチェーン影響について、売上への影響とセグメント毎の状況を教えてください。

A：影響額は、売上高で約30億円弱、営業利益で約7億円と見ており、ソリューションシステム事業（以下、SS）、コンポーネント&プラットフォーム事業（以下、C&P）、それぞれにおいて半々程度の影響があった。

半導体を中心とした部材供給不足により生産ができず、売上が延伸している。1Qでは、C&P、そしてSSではPBX、ホームゲートウェイ等のネットワーク端末に関連するものが影響を受けた。サプライチェーンの状況は7-9月がピーク、その後徐々に改善に向かうと見ている。生産調整、代替品調達等で適宜対応している。

Q：C&Pの自動機の先行投資の現状と今後の見通しを教えてください。

A：1Qの先行投資は金型投資、引当金等で約10億円程度。引当金については、今後のサービス事業の展望も見据え、従来取りに行かなかったような採算が低い案件を積極的に取りに行ったことによるもの。

Q：C&Pは、コロナ影響を受けた前期に対して、今年は戻りつつある中、営業損益が前期同等の背景はなにか。構造改革を通して固定費構造は変わったとみていいのか。

A：構造改革の効果は確実に出ています。市況改善により、情報機器およびモノづくりプラットフォームは堅調。利益前年並みの理由は、主に自動機の先行投資負担によるもの。

Q：欧米販社の構造改革に伴う事業構造改善費用6億円とは、具体的にはなにか。

A：中期経営計画に基づき、海外、主に情報機器の販社改革を行っている。前期は主に販売人員の合理化を図ったが、当期は引き続きバックオフィスの改革などを行っている。

Q：5 ページ、営業利益の階段チャートについて、固定費削減による増益幅が、年間では 10 億円となっていたはずだが、1 Q では 5 億円となっている。年間が上振れする可能性があるということか。また、調達コスト改革効果が、1 Q では 3 億円となっているが、年間計画 15 億円の達成は可能なのか。

A：固定費削減については、スピード感をもって対応している。海外の人件費削減は確実に効果が表れている。

調達コスト低減については、年間 30 億円削減を計画にしているが、サプライチェーン影響による値上げ影響もあり、改革効果が見えにくくなっている。引き続き、設計変更、代替品調達、生産調整等で影響の最小化を図っている。

Q：受注状況について、モノづくりプラットフォーム（旧 E M S）の引き合い状況をアップデートしてほしい。また、S S の 1 Q 売上減について、その分の回復は 2Q 以降ででてくるという理解でよいか。

A：E M S，D M S 領域については、確かに引き合いは相当強い状態。様々な案件で高評価を得ており、失注、転注ということはなく、お客様にお待ち頂いている延伸、期ズレの状況。現状、会社全体を牽引するほどまでは至っていないが、そこを目指して全社を挙げて取り組んでいきたいと考えている。S S については、1 Q だけを見るとパブリックソリューションの減少が目立つが、当期は 4 Q 偏重がいつもより若干強く、このように見えている。ベースの環境は変わっておらず、ここ数年平均すると、売上年率 3% 成長、営業利益 8.5% 程度を維持できている。

Q：O K I のネットワーク関連の顧客が海外展開を最近発表しているが、O K I にとってチャンスはあるのか。

A：個別の案件についてはコメントを控える。

（注）本資料における予想、見通し、計画等は、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。なお、記載内容につきましては実際のやり取りに即しておりますが、理解しやすいように部分的に編集を加えております。